

岩室地区小中合同 CS 通信

令和8年度 岩室地区小中合同学校運営協議会 報告（8月20日実施）

「子どもたちのネットに関わる現状」を示す以下のデータがあります。

- ・平日一日あたりのインターネット利用時間は小学生（10歳以上）が3時間54分、中学生が5時間24分で、2020年度から6割増加
 - ・中高生のおよそ4人に一人がネットにのめりこんで勉強に集中できなかったり睡眠不足になったりしたことがある
- *子ども教育庁 2025年度調査より

子どもたちのネットに関わる状況について、課題が顕在化しています。
新潟市内でも、子どもたちに関わるネットトラブルはゼロではありません。

このような状況を受けて、今年度の岩室地区小中合同学校運営協議会では、小中学生のネットに関わる状況について、皆で問題点を共有し、その対応に何が必要かを考えることにしました。

子どもたちの実態を踏まえての協議をするためには、CS委員だけではなく小中学校の教職員も一緒になって考えることが必要です。そこで、当日は、岩室中学校、岩室小学校、和納小学校のCS委員16名に加えて、3校の教職員38名も参加し、合計54名が一堂に会して意見交流や協議を行いました。



参加者で協議をする前に、小中学生がおかれているネットに関わる状況について参加者が学ぶ場を設定しました。子どもたちのネットトラブルの実態やその背景に詳しい方を講師としてお招きし、講演会を実施したのです。

講演会は「ネットトラブルの現状とその解決に向けてのヒント」と題し、小野郁夫様（元中学校長、元児童相談所指導員）からお話をいただきました。その後、グループごとに協議をして意見交換を行いました。

当日の運営協議会の様子を報告します。

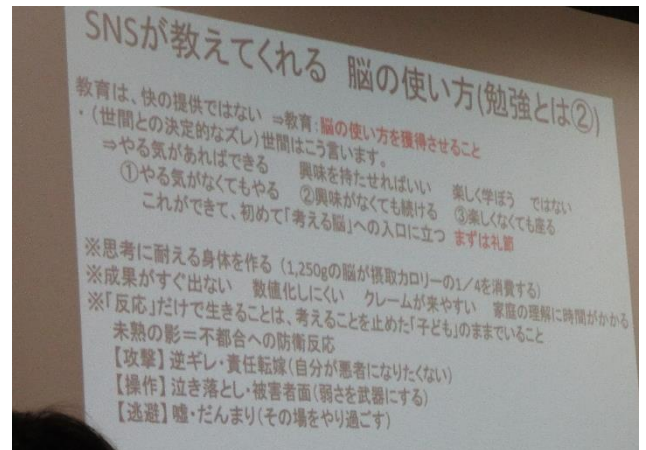


1 講演「ネットトラブルの現状とその解決に向けてのヒント」

講師 小野郁夫様

- ・スマホ依存の本質は「自分で考えなくなること」
- ・スマホにはまるのは、脳の本能である「考える前に反応する」を利用されている
- ・スマホが提供する刺激に反応しているだけで無限に過ごすことができる

- ・スマホの長時間使用→難しければ消せる、嫌なら飛ばせる、反応すれば次の刺激が来る→文字を読まない、考えを組み立てない、現実の他者と向き合わない→分からないこと、できないことに向き合わず、弱さを見せなくて時間が過ぎる→こんな楽なことはない→スマホが面倒なことからの逃げ場になる→さらに長時間使用へ
- ・スマホゲームにはまるのは反応させられているから→失敗をやり直す練習とは違う
- ・依存で失うもの→注意力、睡眠、人間関係、個人情報、自己決定
- ・スマホ（生成 AI）→「使える」ことができれば力を広げる、「使われる」ばかりでは考えなくなる
- ・「反応から考える」へは訓練が必要→「考える訓練」をするのは学校の役割の一つ
- ・学校の勉強は「考えるための訓練」→訓練には「自分の意志」と「人の助け」が必要
- ・生成 AI が広げるのは「考える習慣の場」→「考える人」は生成 AI で思考を増幅し判断の質を上げる、「反応だけの人」は生成 AI に判断を渡し言いなりになるだけ
- ・生成 AI と一緒に考える人になる→基礎学力（読む、書く、計算する、覚える）の訓練が必要→考えることを覚えた生成 AI と考えることを手放した人間
→あなたはどうか？



2 岩室小の取組紹介と岩室中の現状報告

(1) 岩室小の取組

- ①家庭で「メディアを使うときのわが家のルール」作りの取組を実施。医療機関やメディア依存関連の情報を提供し、家庭で話し合ってルールを決めることを働き掛ける。
- ②家庭でのルールの状況を年度末に確認する。児童の9割は「守れた」、保護者の5割は「守れていない」という認識。約4割の差がある状況。
- ③メディアの過剰使用の危険さや、家庭内でルールを守ることの意義をさらに啓発していくことが必要。



(2) 岩室中の実態調査

「ふだん、1日あたりどのくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか？」という調査結果

- ・昨年度に比べて2時間以上利用する生徒が増加。4時間以上利用する生徒も増加しており、全体的に利用時間が長くなっている。



- ・動画視聴時間と定期テストの合計点数との関連を調べたところ、SNS、動画視聴の時間が増えるほど、定期テストの点数が下がる傾向が見られる。

3 グループ協議

グループ協議は 11 のグループに分かれて行いました。

最初に自己紹介や講演会の感想を交流し、その後、以下の 2 つの観点から協議しました。

- 1 子どもたちのネット機器の適正活用のために、今の自分の立場でできること
- 2 子どもたちのネット機器の適正活用の取組として、岩室地区全体でどんな取組をしていくとよいか

どのような意見交流がされたかを紹介します。(記録用紙から一部抜粋)

- 1 子どもたちのネット機器の適正活用のために、今の自分の立場でできることは？

【使用のルール作りについて】

- ・ルールを作ることを考えさせていく
- ・スクリーンタイムやタイムスケジュールの設定、検索の管理
- ・部屋にスマホを持ち込ませない、親と一緒に空間にいる、一緒に関わる
- ・メディアの時間を家庭で決める、ルールを決めて可視化する
- ・保護者にルール作りに必要な情報を伝える
- ・タブレット使用の制限（休み時間は使わない、持ち帰らない、家では使わせない）
- ・目標、約束シート、チェックシートの提示と活用
- ・タブレットで使う内容を制限する（生成 AI は使わない）
- ・学校内でのきまりを徹底させる



【子どもへの関わり方について】

- ・やらせっぱなしではなく見守る
- ・小さい子どもはブレーキがきかない。区切りのある生活をしていく
- ・正しい使い方でない場合にはっきり子どもを叱る
- ・子どもの変化に気付くアンテナを高くする、使用の実態を把握
- ・実体験の積み重ねを大切にする
- ・家庭での影響も大きい（保護者の真似をする）ことから、一緒にどうするか考える
- ・親もたくさん使用するから子どもも使う→親も一緒に使用の制限を

【ネット機器の使用について】

- ・素晴らしい使い方を紹介する

- ・タブレットの中でアナログの使用を意図的に増やす
- ・タブレット使用についての定期的な指導の継続
- ・メディア依存や悪影響の部分を家庭に情報提供

2 子どもたちのネット機器の適正活用の取組として、岩室地区全体でどんな取組をしていくとよいか

【共通のルールづくり】

- ・ルールを考えさせてつくる（タブレットやスマホ依存になってからでは遅い）
- ・学校で取り組む体制を示し、家庭で取り組みを継続すると保護者としても子どもに伝えやすい
- ・「使用のきまり」を共有して家庭で活用、メディアの約束を地区全体で取り組む
- ・「メディアコントロール」の共通ルールをつくり、期間を決めて地区で同じ歩調で行う
- ・触らない日（ノータッチデー）を作る、持ち帰りをやめる
- ・使い方がポイントなので、切り替えができることが大切（使用時間にあまりとらわれなくてもよいのでは）

【保護者、子どもの学ぶ機会】

- ・保護者への情報提供を定期的実施（メディアの悪影響に関する注意喚起も含めて）
- ・親子で情報リテラシーの話を聞く機会をつくる
- ・PTA での講演会で保護者への啓発を
- ・スマホ、タブレットでしてはいけないことをしっかりと教え、保護者にも伝え、地区で共有していく
- ・関係専門機関から講師を招き、ネット機器使用の際の危険性について教えてもらう機会をつくる



【子どもの学び】

- ・デジタルを使わない活動場面を大切にする

【家庭や学校の状況を把握】

- ・保護者の困り感や現状を把握して、対策や情報提供に生かす

前半の講演会や情報提供を通して、参加者全員で子どもの実態や現在の課題を共有したことから、グループ協議では活発な意見交流がなされました。

講師の小野様からは、「子どもたちが考えを言語化する力を身に付けていくことが、ネットや生成 AI に支配されないために必要。そのためにも基礎学力の獲得が重要」また、「そのためには、本人の意思と人の助けが必要」という話が繰り返しありました。

今後、グループ協議で出された意見をもとに、岩室地区での取組を、岩室中、岩室小、和納小の3校で協力しながら具体化していきます。